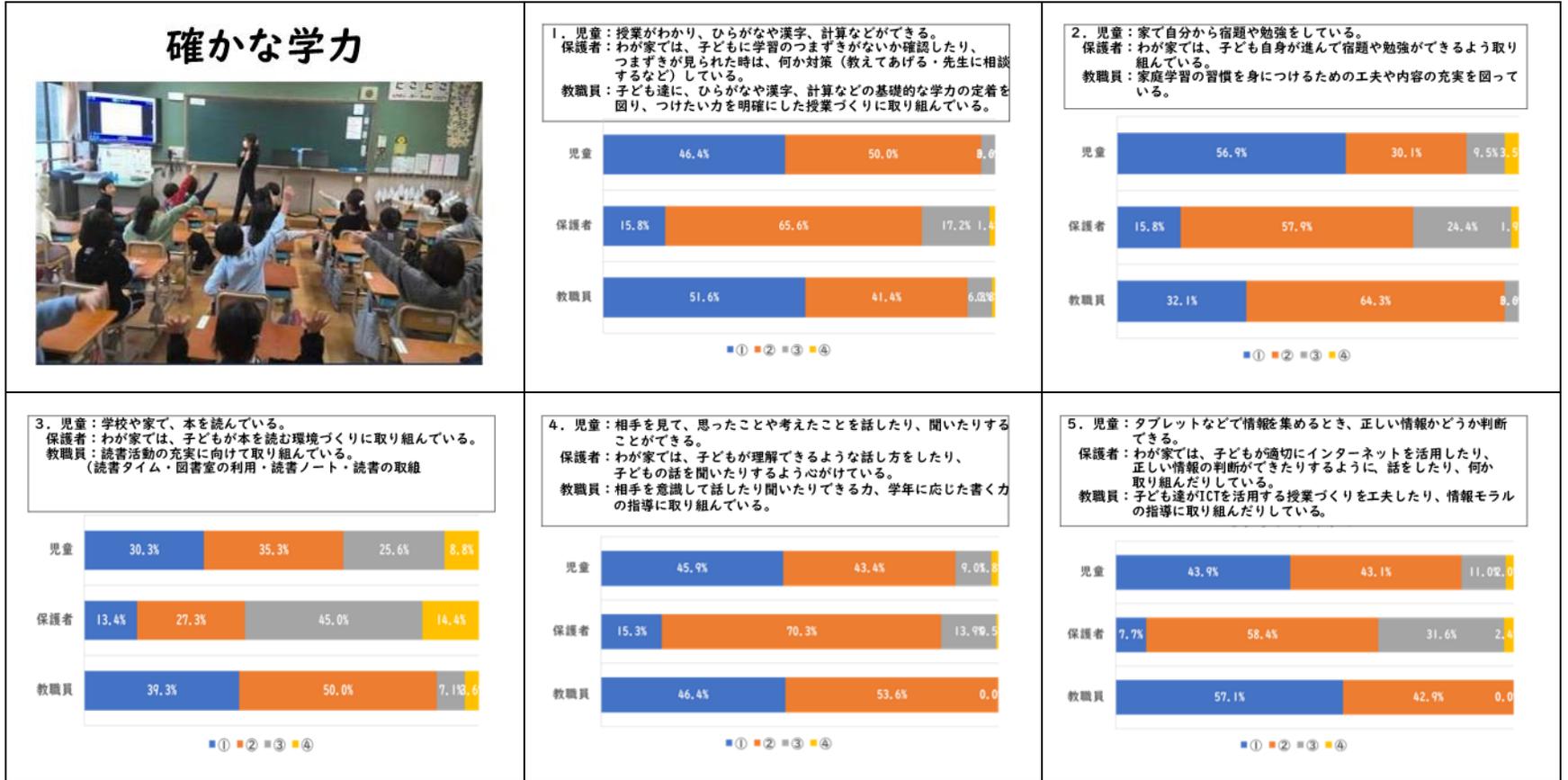




よりよい藤城教育のために ～令和5年度後期 藤城教育アンケート～

NO. 1

厳しい寒さも少しずつやわらぎ、やわらかな春の日差しがうれしい季節になりました。今年度も残り少なくなり、子ども達は卒業・進級に向けて、1年間のまとめを頑張っています。さて、12月には藤城教育アンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートの結果とともに1年間の教育活動について振り返り、分析・考察を行いました。



確かな学力

① 基礎的な学力に向けて

児童、教職員共に、約90%以上がひらがな・漢字・計算などの基礎的な学力が「よくできている・大体できている」と回答。また、それらの学力が身につくような取組を行っているという回答。保護者の方は約20%の保護者が子どもの学習に対する対策が「あまりできていない・できていない」と回答している。お忙しい保護者の方もたくさんおられる中、子ども達の学習への取組が分かりにくいということも考えられる。

② 家庭学習について

約86%の児童が「できている・大体できている」、約96%の教職員が家庭学習の習慣を身につけるための充実を「図っている・大体図っている」と回答。しかしながら、約26%の児童が「できていない」と保護者からの回答がある。家庭学習の習慣を持続できるモチベーションを育てよう学校と家庭で連携し、子ども達の学力向上を図っていききたい。

③ 読書について

児童約34%、保護者約60%が「あまりできていない・できていない」と回答している。学校では、毎朝読書タイムの時間を設けたり、年に2回読書週間を設けたりして、子ども達に読書の楽しさを感じられるような取組、そして充実を図っている。しかしながら、ユーチューブやゲームなどの情報機器がますます充実する中、子どもたちの活字離れが進んでいることも感じられる。本を読むことは、子どもたちの知識や視野が広がっていき、様々な場面で重要とされる「読解力」や「生きる力」の向上にも結び付くのではないかとと思われる。学校では、図書室に行く機会を増やすなどし、意識的に子どもたちに働きかけていきたい。

④ 話す・聞く・書くことについて

児童・保護者・教職員共に高い評価であった。約86%の保護者の方が、毎日忙しい中、子どもたちの話をきいたり、話したりしていることがうかがえる。

④ ICT活用について

児童と保護者に若干の開きが見られた。タブレットなどで情報を集めるとき、約87%の児童が「できている・大体できている」と回答しているのに対して、約34%の保護者が、子どもが適切なインターネットの活用・情報の正しい判断への取組が「あまりできていない・できていない」と回答している。学校では、子ども達がICTを活用する授業づくりを工夫したり、情報モラルの指導を進めたりしている。今後、デジタル技術を活用し教育活動を進める「教育DX」が進む中、学校では各教科においてICT機器を効果的に活用して、情報を正しく判断する力（情報活用能力）の獲得を目指しながら、ICT機器の効果的な活用を進めていきたい。



よりよい藤城教育のために ～令和5年度後期 藤城教育アンケート～

NO. 2

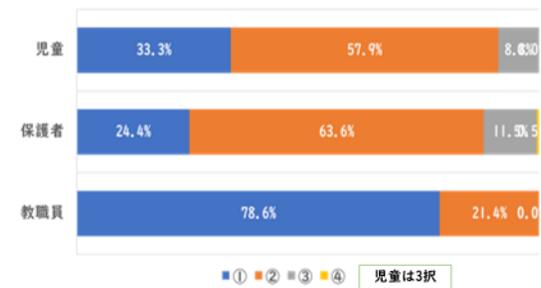
豊かな心



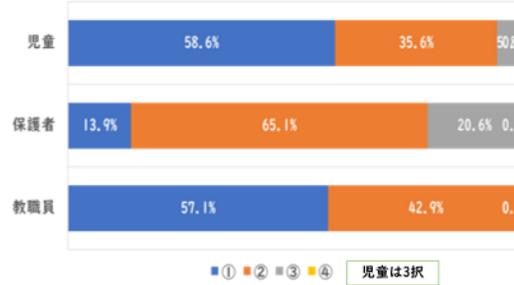
6. 児童：学校は楽しい。
保護者：わが家では、子どもが楽しく学校に通えるよう声かけするなどしている。
教職員：子どもたちが、楽しく学校に通えるような取組を行っている。



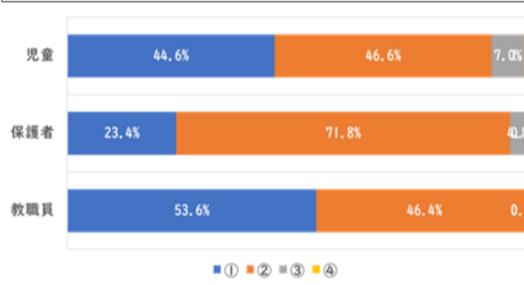
7. 児童：自分には良いところがあると思う。
保護者：わが家では、子どもの良さを認め、ほめるよう心がけている。
教職員：子どもの良いところを認め、ほめるよう心がけている。



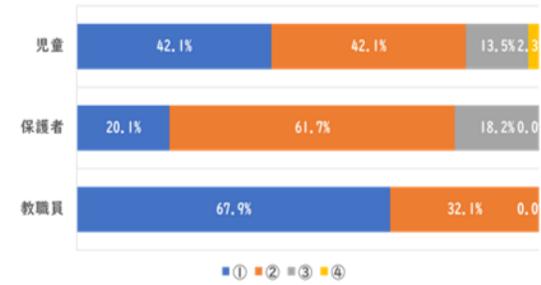
8. 児童：自分には、将来の夢や目標がある。
保護者：わが家では、子ども達に夢や目標がもてるように話をしたり、行動に示したりするなどして働きかけている。
教職員：子どもたちに、夢や目標を持てるよう話をしたり、行動に示したりするなどして働きかけている。



9. 児童：自分がされていやなことは人にしないなど学校のきまりを守っている。
保護者：わが家では、子どもが学校のきまりや交通ルールを守ったり、社会のマナーを身に付けたりできるよう働きかけている。
教職員：子どもたちが学校のきまりを守り、学習規律が身につくよう取り組んでいる。



10. 児童：自分から進んで挨拶をしている。
保護者：わが家では、子どもから進んで挨拶をするよう働きかけている。
教職員：自分から進んで挨拶をするよう働きかけている。



豊かな心

⑥ 学校生活について

児童・保護者・教職員共に高い評価であった。児童約92%が楽しく登校できている。また保護者の方も約98%が楽しく通えるようにお声かけなどをしていただいていることが感じられた。しかしながら、約8%の児童が「できていない」と回答している。前期のアンケートより約2パーセント良くなっているものの、今後も全てのこどもたちが楽しく登校できるよう学校では丁寧に子どもたちに接していきたい。

⑦ 良いところについて

児童約91%、保護者約88%と高い評価である。子ども達が自己肯定感をもつことは、子ども達の今後の人格形成において大変有効である。今後も私たち大人がたくさんほめて、子ども達のよさをのばしていきたい。

⑧ 夢について

児童と保護者に若干の開きが見られた。児童約94%が「できている」と回答しているのに対して、保護者約21パーセントが「あまりできていない・できていない」との回答であった。藤城小学校では、なりたい自分を目指して成長できる学校づくりを目指している。子ども達が夢を描けるよう今後も働きかけをしていきたい。

⑨ きまりについて

児童・保護者・教職員共に高い評価であった。学校では、皆が気持ちよく生活できるよう決まりがあり、マナーがある。今後も人のことを考えられるような人になるよう働きかけていきたい。

⑩ あいさつについて

保護者の「あまりできていない・できていない」の回答が、前回の回答より約12%の上昇がみられた。また、教職員も「できている」の回答も前回より大幅に上昇している。あいさつは子ども達とのコミュニケーションの第一歩だと考えています。今後も大切にしていきたい項目である。





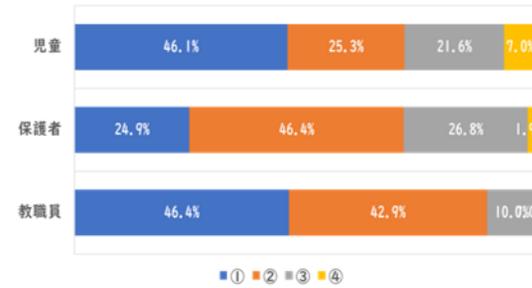
よりよい藤城教育のために ～令和5年度後期 藤城教育アンケート～

NO. 3

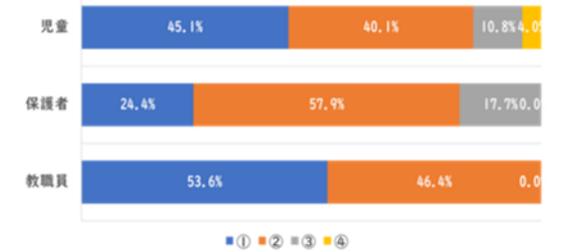
健やかな身体・その他



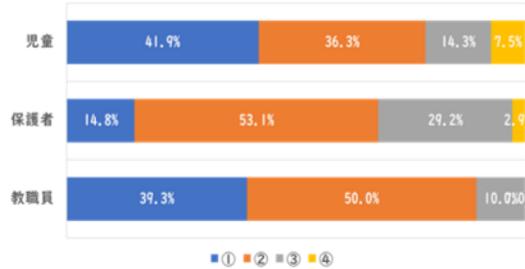
11. 児童：休み時間は外で元気に遊んでいる。
保護者：わが家では、子どもに体を動かす運動や遊びをすすめている。
教職員：休み時間は、子どもに外で遊ぶように声かけを行うなどして働きかけている。



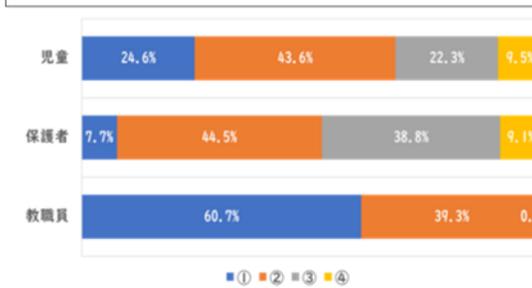
12. 児童：早寝・早起き・朝ご飯など規則正しい生活を意識して、体調を整えている。
保護者：わが家では、早寝・早起き・朝ご飯等規則正しい生活を意識し、体調を整えられるよう取り組んでいる。
教職員：健康や安全に配慮した取組や適切な声かけをしている。（早寝・早起き・朝ご飯をはじめとした保健指導など）



13. 児童：テレビ・ゲーム・ユーチューブ・インターネットなど、やりすぎないように、家庭で決められた時間を守っている。
保護者：わが家では、テレビ・ゲーム・ユーチューブ・インターネットなどについて、家庭での約束を子どもと決めて決めている。
教職員：テレビ・ゲーム・ユーチューブなど適切に時間を守ってするよう声かけをするなどの取組を行っている。



14. 児童：学校教育目標が言える。
保護者：学校教育目標を知っている。
教職員：学校教育目標に向けて子どもの育成に取り組んでいる。



15. 児童：GIGA端末などで学校ホームページを見ている。
保護者：藤城小学校のホームページやチーム藤城オンラインを閲覧している。
教職員：学級・学校だより、学校ホームページなどで、学校の様子を保護者に伝えている。



健やかな体・その他

⑪外遊びについて

児童約28%が「あまりできていない・できていない」と回答している。前回の回答でも、約31%が「あまりできていない・できていない」という回答だった。また、保護者では、約28%が「あまりできていない・できていない」と回答している。コロナ禍以降子どもたちの体力や運動能力の低下が言われている。子ども達の健やかな身体の育成を目指すためにも、たくさん外で遊んだり体を動かしたりするよう働きかけていきたい。

⑫早寝・早起き・朝ご飯について

児童の約15%、保護者の約18%が、「あまりできていない・できていない」と回答している。児童については「何時に寝ますか?何時に起きますか?」という具体的な質問内容ではないが、自分自身で規則正しく生活できていないと感じている児童が約15%もいるということが分かる。テレビ・ゲームで…、もしくは習い事で…多少なりともできていないと感じているようである。

毎日を健康に楽しく過ごすためにもしっかりと睡眠時間を確保すること、朝ごはんをしっかりと食べることなど、体調を整えることが大切である。

⑬テレビ・ゲーム・ユーチューブなどについて

規則正しい生活を送るためにも大いに関係があるテレビ・ゲーム・ユーチューブに関する質問であるが、児童約22%が、家庭で決められたルール内で「あまりできていない・できていない」と回答している。また、保護者の方への質問では約32%が家庭での約束を決めているかどうかについて「あまりできていない・できていない」と回答している。ユーチューブなどの影響は、動画を見せることで視力や発達に影響するのではという心配の声が聞かれる一方で、家事をする時間などを得られて助かっているという声もある。近視が進む原因の一つが、30センチ以内の近い距離のものを見る作業とされている。また、映像や音などの情報を受け入れ続けると受け身になり、自分から働きかける機会が減り、人とのコミュニケーションにも影響がでるかもしれないということも考えられる。スマホやタブレットは、目から30センチ以上離して見るように声をかけること、ゲーム・ユーチューブなどの時間をしっかりと守れるようにすることなど働きかけをすることが大切である。

⑭学校教育目標について

児童・保護者共に低い評価であった。児童約32%、保護者約48パーセントが学校目標を「あまり知らない・知らない」と回答をしている。学校では、本校が目指している子どもの像を、子ども、保護者にしっかりと周知していけるよう取り組んでいきたい。

⑮ホームページについて

児童・保護者・教職員共に低い傾向が見られた。児童約48%、保護者約42%が学校ホームページ閲覧に「あまりできていない・できていない」と回答し、教職員約18%が、学校ホームページ作成に「あまりできていない・できていない」と回答している。学校ホームページでは、子ども達の日々の学校生活の様子等をお伝えしている。また、チーム藤城オンラインでは、藤城地区の様子などについてお伝えしている。このホームページでも、学校と家庭、地域を結ぶ懸け橋となるよう努めていきたい。



よりよい藤城教育のために ～令和5年度後期 藤城教育アンケート～

NO. 4

児童「4月から今までで頑張ったこと」

- ・てをあげてゆうのを1ねんせいころからがんばってます。(2年)
- ・4月から、せいっぱいだしきれてる。(2年)
- ・宿題の量が少し増えても最後までしっかりと宿題をしたことです。(3年)
- ・みんなでやさしくこえをかけたことと勉強がわかるようになっているところです。(3年)
- ・トイレのスリッパをそろえたり、先生や友達のお手伝いをしたことです。(4年)
- ・登校するときにあいさつされる前にちゃんとあいさつする。(4年)
- ・みんなと協力して運動会や学習発表会をやり遂げたこと。(5年)
- ・友達と仲良くしてグループなどで活動するとき、協力して絆を深められました。(5年)
- ・やるときめたら最後まで丁寧にしっかりとやること。(6年)
- ・下の学年の子に優しくする。(6年)

保護者「4月から今までで子ども達の成長」

- ・学習面において、文字や計算など学んだ事が身についていると感じます。(1年)
- ・友だちを大切にしている。転校する友だちと「転校するまでに沢山遊びたい！」近所の友だちたちと話し合い、そのために学童を休みたいと自分から伝えてくれた。友だち思いの良い子だと嬉しく思った。(2年)
- ・何をしたら注意されるかなど理解できるようになった。やるべき事をやらないといけないと理解できるようになった。(3年・5年)
- ・友達と考え方の相違等で衝突した時、ただただ泣いているばかりだったが最近では傷ついてそこから考え方を換え、前向きに自ら考え付き合えるようになり成長を感じています。(6年)
- ・嫌なことがあっても自分の中で解決しようとしたり、我慢しようとしたりすることができるようになってきた。(5年)
- ・良い意味でも悪い意味でも周りからの評価を気にするようになってきた。(4年)
- ・高学年になり、思春期にはいつてきたなあと感じます。あまり学校や友だちの話をしなくなったり、少し友だち関係に悩んだりする姿にも成長を感じています。発表会では自分たちで作り上げていく姿に感動しました。(3年・5年)

教職員「4月から今までで子ども達の成長」

- ・校内(登校時・下校時以外)でも、「こんにちは！」と明るくあいさつ出来る子が増えた。
- ・人としての部分が育つてると感じます。仲間を大切にすることであたり、諦めない気持ちであったり、何事にも感謝することであたり、出来ないことを恥ずかしがらないであったり、これからの社会を生きていく上で大切なことを学んでくれていると感じます。
- ・運動会や学習発表会など、行事を経る毎に聞く力が成長していると感じます。
- ・給食の量も増えてきて、苦手なものを少しでも食べられるようになってきている子が増えてきたように思います。そして、その子たちが体調を崩すことが少なくなって欠席数が減ったと思います。
- ・漢字が苦手だった子が少しヒントをだすと思い出して書けるようになっていました。
- ・より主体的に学ぶようになった。より学習を楽しめるようになった。
- ・自分のからだのこと(けがや体調不良)を観察でき様子を伝えられる子が増えました。

地域「今後も地域と保護者と学校が連携して、教育活動を行うために、どんな工夫が考えられますか。」

- ・地域人材(協力者・理解者)を増やすための仕組みや仕方を考える。
- ・学区(地域)行事に学校からの積極的な参加があり、交流がなされていると感じます。今後も色々な機会を通じて、体験して貰う事が大切だと感じます。
- ・保護者がイベントごとなどに参加する場合は子どもたちも一緒に参加出来るようになれば、保護者の参加もしやすくなると思います。子どもを留守番させて参加はなかなかハードルが高いと思います。
- ・実話の「夢見る学校」のような、子供達がイキイキしている表情が周りを巻き込む原動力になるのでは!?
- ・これまでも情報発信や地域・保護者・学校の三位一体の活動は十分に行われている。今後も運営協議会を中心としてこれまでの活動の検証や新たな活動の可能性を検討できたらよいのではないかと。
- ・地域行事に来られた方へに対して情報発信をし、学校ホームページをより多くの方々に知ってもらおうようにする。

自由記述

自由記述には、子ども達の成長を感じる回答をたくさんいただき、ありがとうございました。一部ですが、紹介させていただきます。また、地域の方からは、家庭・学校・地域の三位一体の教育活動についてご意見をいただきました。今後も藤城教育推進のため、ご協力をよろしくお願いいたします。

今回は年度の途中ではありますが、児童・保護者・教職員の三者の質問内容を統一し、内容の精選・改定を行いました。これは、アンケートの質問内容に対して三者それぞれの到達度を見取るためです。また、内容項目については、「確かな学力」より5問、「豊かな心」より5問、「健やかな体・その他」より5問の計5問に統一し、保護者へのアンケートは前回までのお子さんお一人につき一回答から各家庭につき一回答へとしました。

今回のアンケート結果を踏まえ、今後の藤城校の教育力を高めるため、成果・課題をしっかりと認識し、改善に向けて取り組んでいきたいと思っております。

今後も引き続き、保護者・地域の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

※グラフの数値はいずれも

- ①できている ②大体できている ③あまりできていない ④できていない
(3択の場合は①できている②大体できている ③できていない)

